



自然共生の
先進都市をめざす
私たちの
行動戦略

ちよだ 生物多様性 推進プラン 〔概要版〕



千代田区
令和6年3月



麴町・番町・
飯田橋・富士見エリア

豊かな草場が
残されています。
(外濠の緑道)

区割りの大きな街並みを活かしてまちなかの緑が維持・創出されることにより、外濠や靖国神社などの規模の大きな緑地との間で、多くの生きものが行き交う生息環境のネットワークが形成されています。



皇居～内濠エリア

生物多様性が豊富な内濠景観がよみがえっています。

江戸城築城に由来する歴史的遺構を基盤として豊かな生物多様性が引き継がれ、多様な生きものが周辺のエリアに広がるとともに、より多くの人びとが、豊かな自然に親しむ場として利用しています。

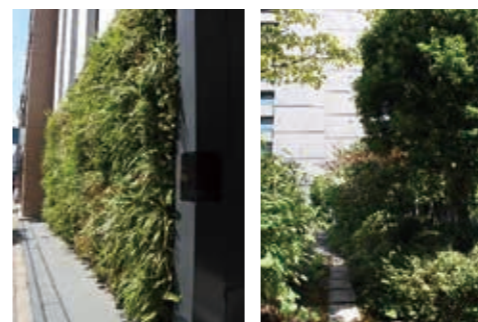


大手町・丸の内・
有楽町・永田町エリア

緑を活かした快適な空間とにぎわいのある街がつけられています。
(丸の内のオープンテラス)

各省庁の本庁舎や企業の公開空地を中心に生物多様性に配慮した緑地がつながり、皇居や日比谷公園、国会前庭、日枝神社などとの間に生きものの生息環境のネットワークが形成されているとともに、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。

2050年 千代田区の 将来像



神保町・神田公園・
万世橋・和泉橋エリア

屋上・壁面の緑化など、
緑化の工夫がまちなかに
広がっています。

行政や教育機関、企業の連携によって、エリアに点在する公園・緑地のつながりが強化され、にぎわいあふれる街並みの中にまとまりのある生きものの生息拠点が多く形成されています。皇居から上野の森へと続く生態系のつながりが強化され、上野の森までを含めた生物多様性が保全されています。さらに、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。



2050

千代田区が目指す
2050年将来像と2030年目標

2050年将来像
持続可能な自然共生の
先進都市になっています

- ・豊かな生物多様性を活用した社会課題の解決
- ・持続可能なライフスタイル・社会経済活動の定着
- ・脱炭素社会の実現

2030年目標
千代田区ならではの
ネイチャーポジティブを実現します

皇居を核とした生態系のつながりが区内外に広がり、千代田区に集うすべての人が生物多様性を意識した持続可能な行動を選択することで、都心環境の豊かな暮らし・活動が支えられている



皇居の豊かな生態系



ノアザミ
(外濠公園の草地)



日枝神社のスタジイなどの樹林



清水谷公園の地形に沿った
樹林・水辺



大手町タワーの「大手町の森」



紀尾井町ガーデンテラス



神田児童公園



和泉公園

生きものの生息の場が少ない市街地

皇居から広がる
豊かな生態系



日比谷公園のコサナエ

皇居の周りに位置する内濠や外濠公園、弁慶濠、日比谷公園、靖国神社や日枝神社の樹林など多様な生きものが生息・生育する豊かな自然があります。

公園や神社などの敷地に
引き継がれている様々な自然

千代田区内には、清水谷公園や日枝神社など、自然地形の上に成立した植生を今に残す場所があります。

生物多様性に
配慮した企業緑地



三井住友海上駿河台新館 ECOM 駿河台

新たな企業緑地は緑地認証の登録も多く、緑地と緑地をつなぐ飛び石的な拠点やコリドーとして期待されています。



生息が確認されているミシシッピアカミミガメとアメリカザリガニ

在来の生きものを脅かす外来生物

私たちにできること

～2030年目標を達成するためには私たち一人ひとりが行動をおこすことが大切です～

区民一人ひとり

環境に配慮した
ライフスタイルを選択します

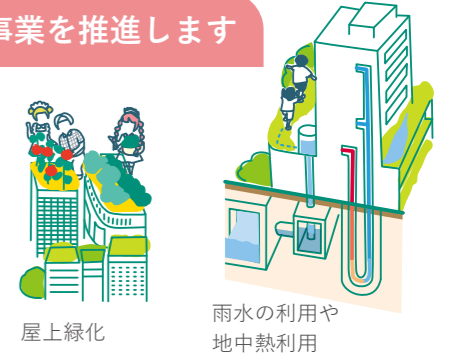
在学・在勤者、観光客を含む区民の行動が区外の生物多様性にも影響を及ぼしていることを理解し、環境に配慮したライフスタイルを積極的に取り入れます。



事業者

ネイチャーポジティブを目指した事業を推進します

あらゆる事業活動（調達材料、エネルギー、人的資源、土地利用）において、生物多様性保全の視点に立った行動を選択し、消費者から選ばれる企業となります。また、事業所の敷地での緑地創出を図ります。



環境保全団体

自然教育の機会を創出し
人材を育成します

自然環境情報を収集・発信します。また地域の自然教育や生物多様性に関する体験学習の機会を広く提供し、主体的に行動できる次世代の人材を育成します。



大学・教育機関など

生物多様性に関する教育と
普及啓発を推進します

生物多様性に関する知見を広めるとともに環境保全活動、区民への教育を積極的に推進し、地域の生物多様性向上に貢献します。



私たちが取り組む主な行動計画

戦略Ⅰ 皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化

[2030年に達成すべき状態]

1. 区内にとどまらない生態系ネットワークが多様な主体の連携により形成・強化されています。
2. 区内の生きものと生態系の情報をあらゆる主体が協働で収集・蓄積し、共有して、活用しています。

- ◆ 生態系ネットワークの強化に寄与する緑地・水辺の創出、維持管理をあらゆる主体が推進します。

(戦略Ⅰ-1 行動計画 2)



左：ホトリア広場（自然共生サイト・ABINC 認証緑地・SEGES 認証緑地）
右：まちなかにつくられた花壇に飛来するクロアゲハ

- ◆ 国や都、他自治体と連携し、河川・濠の水質の改善、良好な水辺環境の創出を図ります。

(戦略Ⅰ-1 行動計画 5)



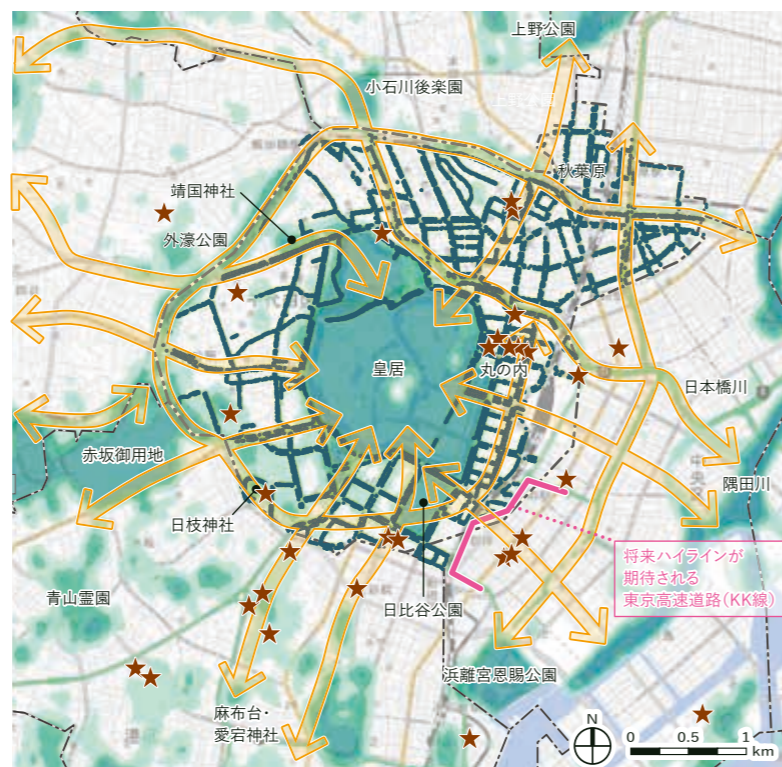
水辺の生きものの生息に適さない河川環境（日本橋川）

- ◆ 主体間の情報共有や生物多様性保全の取組みの連携を促進します。

(戦略Ⅰ-2 行動計画 1)



平成 26 年から継続して行われている「千代田区生きものさがし」



- 周辺区の計画に示されているつなげたい緑地・既存の緑地等
- ★ 認証緑地（ABINC 認証・SEGES 認証・自然共生サイト・江戸のみどり登録緑地）
- 区内の区道・都道・国道の街路樹

皇居の緑を核とした生態系ネットワークの 2030 年の姿です。皇居の豊かな緑は都心の生物多様性を豊かにする貴重な存在です。この自然環境を核に、2030 年に向けて生態系ネットワークを形成・強化します。

図中の矢印は、水辺を含む主な緑地のつながりとその方向を示すものです。この矢印に沿って、今ある緑地の生物多様性の保全・回復を図り、千代田区から周辺地域へと広く生物多様性を向上させていくことを目指します。

戦略Ⅱ 自然共生社会を意識した行動の浸透

[2030年に達成すべき状態]

1. 生物多様性を守り育てる行動が次世代に引き継がれています。
2. 環境に負荷を与えることが少ない消費行動が根付いています。

- ◆ 多様な主体と連携した体験学習の充実や学校教育を通して自然と共生する心をはぐくみます。

(戦略Ⅱ-1 行動計画 1)



区内企業の緑地（三井住友海上駿河台ビル屋上庭園）で実施している駿河台生きものさがし自然塾

- ◆ 環境への負荷の軽減を意識した行動や事業活動を推進します。

(戦略Ⅱ-2 行動計画 1)

- エコロジカル・フットプリントの見える化
- 食品ロス削減の推進

区民が消費する製品ができるまでの過程で起こる環境負荷などを数値化し、環境負荷の少ない消費を選択する行動を促します。

地球が生産できる力



人間が消費・廃棄する量



エコロジカル・フットプリント：わたしたちが地球何個分の暮らしをしているかを数値で表したもの

区民・事業者・区が一体となって食品ロス削減に取り組み、新しい「食品を無駄にしない」事業活動、生活様式を経済・文化として発信することにより、持続可能な社会を支える「循環型社会」の確立に貢献していきます。また、そのことを通じて、温室効果ガスの削減、地球環境危機への対応を進めます。

戦略Ⅲ 自然を活かした多様な社会課題の解決

[2030年に達成すべき状態]

1. 自然環境が持つ多様な機能（生態系サービス）を活かした解決策（NbS）により、持続可能なまちがつけられています。
2. 千代田区の実践事例がモデルとなり他地域で広く活用され SDGs の達成に貢献しています。

- ◆ 自然の機能を活用した防災・減災・ヒートアイランド抑制に取り組みます。【レインガーデン等グリーンインフラの活用】

(戦略Ⅲ-1 行動計画 1)



三井住友海上駿河台新館前のレインガーデン
底は土壌となっており、周囲からの雨水を浸透させて植物が生育します。

- ◆ 地方との連携による森林整備（カーボン・オフセット）事業と生物多様性に配慮した整備方法の両輪を軸とした方法に転換します。

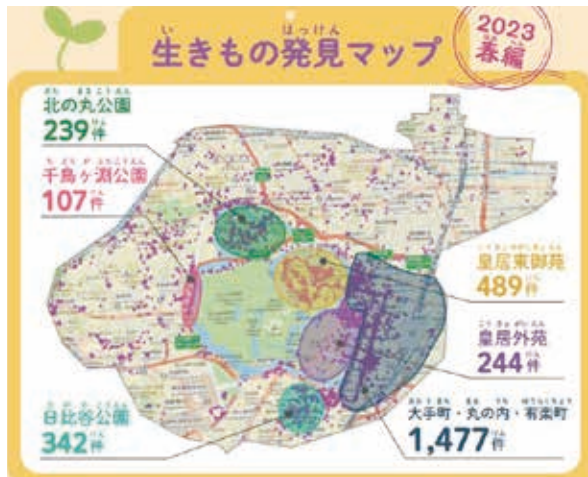
(戦略Ⅲ-1 行動計画 3)



植樹ツアーの様子



2023年
春編・夏編の案内



2023年春編の結果：発見マップ

千代田区生きものさがし

千代田区内に生息・生育する生きものの現状確認と区民の生物多様性への関心を高めることを目的として、2014（平成26）年から毎年、継続して実施しています。区民・在勤・在学・来訪者など、どなたでも参加できます。

生きものさがしの結果は、区のホームページで公表されており、例年多くの情報が寄せられています。今後、これらの情報を蓄積、情報公開し、区民のみなさんも取り組める生態系ネットワークの強化や希少種・外来種対策に活用していきます。

参加してみよう・やってみよう～“生物多様性”で豊かな暮らし～

ちよだ生物多様性大賞

生物多様性に関して、優れた活動、今後の発展が期待される活動を表彰し、応援する千代田区独自の制度で、平成28年度に都内ではじめて創設されたユニークな取り組みです。家庭での身近な取り組みや学校、グループ、事業者などに保全活動に積極的に取り組んでもらうことが目的で、ちよだの生きものたちの魅力を改めて感じることができます。



標本づくりの様子



令和4年度受賞
標本づくりや比較を行った「千代田区と東京近郊の昆虫生息調査」



対象となる活動	活動例
生物多様性の保全に関する活動	アダプトシステムへの参加、在来種による緑地づくり、ツバメの巣の見守り等
生きもののネットワークづくりに関する活動	鳥が休める場所づくり、生きものが住みやすい場所づくり、小さい空き地を活かした緑化等
生物多様性の普及啓発に関する活動	セミ羽化観察会への参加、生物多様性の普及グッズの制作等
上記の他、特徴のある活動	生きもの情報の蓄積や発信



令和4年度受賞者の皆さんと審査員

千代田区では区民の皆さんと取り組めるアイデアの情報を発信しています。ぜひ千代田区環境政策課ホームページをご覧ください。

二次元
コード

「ちよだ生物多様性推進プラン」の本編（詳細版）は千代田区環境政策課のホームページでご覧いただくことができます。

二次元
コード